

第4回門真市生涯学習推進基本計画策定委員会 会議録

1. 日時 平成 25 年 5 月 30 日（木）午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分まで
2. 会場 門真市役所 本館 1 階 第 5 会議室
3. 出席者（委員） 今西委員長、桂副委員長、宮本委員、石原委員、山田委員、
清澤委員、岡本委員
事務局 柴田部長、山田次長、脊戸課長、西山課長補佐、清水主任、藤田主査
コンサルタント 株式会社ユーエヌ土地利用研究所 中佐、中川
傍聴者 0 名
4. 議題 案件 1 …委員長・副委員長の選定について
案件 2 …平成 25 年度のスケジュールについて
案件 3 …門真市生涯学習推進基本計画（素案）について

事務局 それでは定刻となりましたので、第 4 回門真市生涯学習推進基本計画策定委員会を開会します。はじめに、お手元の資料の確認をお願いします。

まず、議事次第です。

次に、資料 1 「門真市生涯学習推進基本計画策定委員会 名簿」です。

次に、資料 2 「門真市附属機関に関する条例（抜粋）」です。

次に、資料 3 「門真市附属機関規則に関する教育委員会規則（抜粋）」です。

次に、資料 4 「平成 25 年度年間スケジュール」です。

次に、資料 5 「（仮称）門真市生涯学習フォーラム」説明資料です。

最後に、資料 6 「門真市生涯学習推進基本計画（素案）」です。

お手元に無い資料がございましたら、お伝えいただきますようお願いいたします。

それでは案件に移る前に人事異動等により新たに事務局に加わった者がおりますのでご紹介します。お手元の資料 1 をご覧ください。

生涯学習部次長の山田益夫です。

地域教育文化課課長補佐の西山公美子です。

株式会社ユーエヌ土地利用研究所の中川満美です。

今後ともよろしくお願いいたします。

それでは案件に移ります。まず案件 1 「委員長・副委員長の選定」について、資料 2 をご覧ください。

昨年度は要綱に基づき本委員会を設置しておりましたが、門真市附属機関に関する条例を全部改正し、本委員会を附属機関と定めることにより、本委員会は門真市附属機関に関する条例に基づき設置することとなりました。次に資料 3 をご覧ください。

「門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則」第 3 条の規定に基づき、平成 25 年 4 月 1 日付で皆様を委員として委嘱させていただきました。また、第 4 条の規定に基づき、委員長及び副委員長を委員の皆様の互

選により定めることとなっております。

委員長及び副委員長につきましては、昨年度、委員長を今西委員に、副委員長を桂委員に務めていただいておりますことから、本年度につきましても委員長を今西委員に、副委員長を桂委員とされてはいかがかと存じます。このことにつきまして、皆様はいかがでしょう。

全員 異議なし

事務局 ただ今、「異議なし」のお声がございました。よろしければ拍手をもってご承認いたします。（拍手）

ありがとうございます。それでは、委員長には今西委員、副委員長には桂委員にご就任いただきます。今西委員、桂委員は委員長席、副委員長席への移動をお願いします。

それでは、以降の議事運営を今西委員長にお願いしたいと存じます。今西委員長よろしくお願いします。

今西委員長 桂委員と私で今回もまとめさせていただきます。皆様の考えをいただきながら実りある計画をつくっていきたいと思っています。それでは案件2、事務局より説明をお願いします。

事務局 それでは、案件2「平成25年度のスケジュール」についてご説明します。資料4をご覧ください。

平成25年度は、本計画の策定に係る2ヶ年のうちの2年目として、本年度内に計画を策定するため、計画案の検討を進める年でございます。

具体的には、この策定委員会を本日含め5回、市職員の課長級で構成する本計画策定検討委員会を5回、市職員の担当者で構成するワーキンググループを5回開催し、計画の文言等について検討してまいりたいと考えております。

また1月頃に計画案に関するパブリックコメントを実施し、計画案の修正について検討を行った後、教育委員会の承認を経て、年度内に計画を策定いたします。

前回の策定委員会でお示したスケジュールからの変更点といたしましては、昨年1月頃に「(仮称) 門真市生涯学習フォーラム」を開催したいと考えております。これは当初、市民公募型ワークショップを年度内に3回程度実施し、計画案の検討に参考となるご意見を収集したいと考えておりましたものを、検討委員会等での議論を経まして、ご意見につきましては昨年度実施したアンケート調査で十分に得られたことや、市民の皆様の生涯学習の認知度が低かったことを踏まえ、より多くの方に生涯学習の考え方をお伝えし、生涯学習活動がおもしろいものだという感じていただくため、フォーラムを開催してはどうかとい

うアイデアに至ったものです。フォーラムの案につきましては、資料5をご覧ください。

フォーラムの副題には、計画の基本理念若しくはキャッチコピーを置きたいと考え、本日は後でご説明させていただく素案の内容を仮に反映させております。その目的は、生涯学習の認知度の向上を図ることと、同時期に行うパブリックコメントに関心をお持ちいただき、一件でも多くのご意見をいただきたいというものです。

会場はルミエールホールの小ホールが適当だと考えておりますが、この頃の土日祝日の予約が埋まっていることや、日中お仕事をされている方のご出席もいただきたいことから、開催時間を平日の夜としたいと考えております。具体的日時につきましては、本日皆様のご承認が得られてから調整し、決定したいと考えております。

内容につきましては、今西委員長から生涯学習について基調講演をいただくほか、パネルディスカッションとして市内や他市における生涯学習活動の実践などについてお話いただきたいと考えておりますが、パネラーにつきましては承認を得られた後、検討委員会等で具体的に検討して人選を考えていきたいと思っております。

以上、平成25年度スケジュールについて、特に新たに考えた生涯学習フォーラムについてご説明をさせていただきました。このことにつきまして、委員の皆様からご意見など頂戴したいと存じますのでよろしくお願いいたします。

今西委員長 案件1についてご意見をいただきたいと思います。何かございませんか？

山田委員 非常にいい案だと思います。私どもも小学校区で年に1回フォーラムをしており、その時にぜひ生涯学習について講演をしていただくことを本年度計画していたのですが、できなくなってしまったので、ぜひこのような大きな形でしていただくと市民の方にも刺激ができて、非常にいいことだと思います。

今西委員長 フォーラムを開くことについては賛成です。後半の方で何人かのパネリストの方がそれぞれお話いただき、ちょっとした助言をさせていただくのは問題ないのですが、問題は前半で、「生涯学習とは何か」とか「生涯学習でまちづくり」をテーマに話してもおもしろくないです。

例えば、絵や写真で見る生涯学習まちづくりとか、全国のいろいろなまちづくりをしているところ、そして門真の生涯学習まちづくりの活動を紹介するとか、気のきいた内容にした方がおもしろいように思います。フォーラムをするしないは本日決めなければなりませんが、大きな反対がなければするという方向で、内容については、いろんな意見をいただいて事務局で考えていただくのが良いと思います。

清澤委員 冒頭の内容がかたい気がするので、入りやすい内容にした方が良いと思います。広報した場合に、行ってみようという関心をもたせられるようなやり方を考えなければなりません。フォーラムは関心のある人は来られますが、日頃このようなことに出てこられない人にも来てもらうという広報の工夫も必要だと思います。今西委員長もおっしゃられた他市の事例紹介はわかりやすく入ってきやすいので非常に気になると思います。参考になる説得力のあるような事例を中心にあげていただくと良いのではないのでしょうか。あとパネラーは行ってみようと思わせるような人を選んでいただければ良いのではないのでしょうか。

今西委員長 今、いろいろ意見を出していただいた方が事務局も参考になるとしますので、他にご意見ございませんか。

石原委員 先ほど今西先生がおっしゃったように、言葉というよりも事例で映像にも訴えるようなものを使えば良いと思います。フォーラムに慣れていなかったり、体験が少なかったりする市民のみなさんを巻き込んで関心をもっていただくとなると、映像がすごく効き目があるように思います。

宮本委員 私も同じような考えで、生涯学習を今回の市民アンケートでも8割の方が知らない、よくわからないという回答がでていますので、どうやって市民の方々に周知すれば良いかを考えると、他市の事例で採用できそうなものを入れて教えていただければと思います。

岡本委員 副題ですが、資料を読ませていただきましたが、「“おもしろいこと”発見!かどま」の“おもしろいこと”の響きやニュアンスが我々と違っていて、大阪弁だと“おもしろいこと”の方がしっくりくるように思います。“おもしろいこと”というのはよそいきの言葉のように感じ、その点が気になりました。

今西委員長 私も“おもしろい”ですね。この言葉についても、一度事務局の方で考えてください。

事務局 職員の会議でも“おもしろい”にするのか“おもしろい”にするのか、議論のあったところで、ぜひ本日ご意見をいただきたいと思っておりました。

清澤委員 個人的には“おもしろい”の方が良いと思います。“おもしろい”は、はじめのつかみは良いのですが、言葉的にローカルすぎるような気がします。

桂副委員長 市民の方々がどのように感じるのかわからないです。私も“おもしろい”の方

がいいと思ったのですが、もしかしたら“おもしろい”の方が多くの人に来てくださるような気もするし、内容から出てくる題名としては、“おもしろい”はどうかと思いました。全体的に、小学校低学年は方言でしゃべらなかつたりするので、“おもしろい”という河内弁的な言葉が世代を越えてひきつけ、馴染んでくるのであれば、“おもしろい”でいいでしょうし、ずっと続くのであれば“おもしろい”にしたいと思っています。

今西委員長 いろいろご意見をいただいたので、事務局で一度考えてみてください。

桂副委員長 今では、パワーポイントで説明される方が非常に多く、慣れてしまっているところもありますが、パワーポイントを使用すると、人の引き込み方がものすごく違います。講演を聴きに行っても、自分の生活とマッチしたところまでこないため、話が頭に入ってこない場合が多いので、パワーポイントなどを使いながら、具体的に分かりやすくお話をされたら良いのではないかと思います。

それともう一つ、生涯学習を学んだ人達が生活の場で役割を果たしてもらうことを考えると、自分だけでなく社会貢献をしていくような拡がりをもっていくようなことを目指しているのであれば、今している方々、社会的に忙しい方々、これからの若い方々がわくわくするような形で引き込まないと難しいのではないかと思います。

今西委員長 引き込み方はなかなか難しいと思います。いろいろ工夫していただいて、このメインイベントと並行して何かほしい。予算的、場所的に可能であれば、おもしろいと思います。

事務局 並行というのはどのようなイメージですか。

今西委員長 ルミエールホールで別の場所で、ロビーとかでよく写真展などをしていますが、それよりもおもしろいもの、この前お渡しした資料で近鉄百貨店あべの店の地域新聞がありましたが、ああいったことなどもおもしろいと思いますし、いろんな人がいっぱい集まってくるような仕掛けをNPO中心で近鉄百貨店が仕掛けたのですが、いろんな仕掛けを考えていただいたら良いと思います。

第1部は、映像で「生涯学習でまちづくり」というテーマで、事例的なものを紹介し、「生涯学習でまちづくり」とは何かを口頭でしゃべるのではなく、全国の活動の映像から理解してもらう方が頭に入ってきやすいと思います。

一番最初に掛川市から始まった生涯学習宣言都市の取り組みなどを紹介してみたら結構おもしろいものができるのではないかと思います。

もし、先生方からアイデアがございましたら、藤田さんに連絡してください。それでは、次の議題に進めさせていただきます。案件3の「門真市生涯学習推

進基本計画（素案）について」、事務局から説明をお願いします。

事務局

（ユーエヌ）

これについては、私の方より説明させていただきます。今のお話にあった生涯学習という言葉ですが、時間のある方が自分の教養や楽しみで活動しておられるという意味ですが、国の計画では、「生きる力」、「人々のつながり、絆」、「生涯学習社会の構築」だとか、このような意味まで含めてきています。一人ひとりの興味で、「いつでも、どこでも、だれでも」という個人的なこと先述の国の方針を結びつけていくことは非常に難しいところがあります。

現段階では、内部で作っている資料なので、ややかたい内容になっているところがあるかと思います。作業の中で一般の方々にもわかるよう表現を崩して、易しくしていきたいと思っています。

資料6で「素案」と書いておりますが、全体ができ上がったという意味ではなく、構成を一応整えたもので、全体の構成として6章からなっています。計画の策定にあたり前段としての現状、去年のアンケート、課題、そして5章以下が計画の中身となり、基本構想、施策の展開という流れで構成させていただいております。

1ページの「計画の策定にあたって」ですが、生涯学習の計画策定の主旨ということでは、国の教育基本法で「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」、という理念が示されており、これが出発点となっております。

今回策定するにあたり、2ページの「生涯学習社会をめざす意義」で、総合計画に書いてある、「門真市に住んでよかった」、あるいは「門真市に行ってみたい、住んでみたい」まちという形で意義を設定しました。

生涯学習の必要性については、四つ挙げています。一つ目が、一人ひとりの市民にとって新たな知識・技術を個人の立場で修得できるようにする、二つ目が、わがまちの大きい課題として、少子化で一人ひとりの子どもが健やかに育ち成長する、生涯学習を推進していく。三つ目が、高齢化社会の中で健康で生きがいの感じられる生涯学習活動の活性化があります。四つ目として、門真市が活気と活力あふれる総合計画にある「元気、体感都市」の地域づくりというところで必要性を述べています。

4ページの計画の概要については、先ほど申し上げたとおり、第5次総合計画、図の右の方にあります。これを出発点としています。市の関連計画と連携をとりながら、この計画の中で理念、目標、大きな施策展開の方向までをたてて、これをスタートとし、もう少し細かい計画を個別の諸計画として策定していくこととしています。

計画の期間は来年度から10年間となっています。

6 ページでは、全国の現状や本市の現状をまとめています。社会潮流として四つあげています。人口減少と高齢化、それから家族、地域の関係性の希薄化、市民活動・社会参加意識の高揚、そして国際化・情報化の進展です。

8 ページの本市の現状では、人口が平成 2 年以降減少局面に入り、国勢調査によると、ここ 20 年間で 12,000 人ほど減少しています。毎年 600 人くらい減少していることになります。年齢 3 区分別人口構成では、超高齢社会に突入しており、若者（15 歳未満）が、この 20 年で半分くらいになっています。出生率も 1.25 と減ってきています。

10 ページの小中学生も、平成 18 年がピークで 7,860 人、それから減少局面に入っています。一方、外国人が 2 % ほど（神戸市では 4 %）おられます。また総合計画のアンケートから引用したのですが、このまちに定住したいとの定住意向が 50.3 % と半分以上あるのですが、他の都市と比べてやや少なくなっています。

13 ページの本市の生涯学習の現状は、先生の本から引用させていただいておりますが、「生涯教育」という言葉が昭和 40 年くらい、「生涯学習」という言葉が昭和 56 年くらいに登場し、平成 2 年に生涯学習振興法が施行され、平成 20 年には社会の要請や地域のつながりを位置づけています。このような経過があります。

14 ページの本市の取組みについては、教育委員会内に生涯学習部を置き、様々な施策を展開し、生涯学習振興行政を推進しています。総合計画の中から関連する言葉を出しているのですが、「第 4 章 いきいきと人が輝く文化薫るまち」の「第 2 節 ワクワクする人や出会いを育む文化のまちをつくります」、「生涯にわたり、学習や仲間づくりができる環境をつくります」、「愛着と誇りに思う文化を育む環境をつくります」、このような言葉で表現しています。

本市が行っている施策を 15 ページ以降にまとめています。平成 23 年の市の資料から引用し、少し修正していますが、「生涯学習・市民文化活動の推進」、「青少年の健全育成」、「家庭・地域の教育力の活用」、「生涯スポーツの振興」、「図書館活動の振興」などの事業を行っています。

19 ページの本市の学習施設の状況は、位置図は 20 ページにあります。学習団体は 540 団体、総合計画にありますが、アンケートをとった時にはもっとあったので、登録されていない団体があるのかもしれません。

22 ページのアンケート結果は、生涯学習の内容を知らない人が 8 割、生涯学習とは「自分自身の教養を高めること」、「趣味や好きなことを行うこと」、など自分自身についてのことにとらえています。この 1 年以内に生涯学習活動をしたことがないという人が 7 割、しかし、（生涯学習に）取り組みたいという人は 6 割ということで需要を持った市民は多くおられると言えます。

24 ページの市が取り組むべきこととして、「情報を提供してほしい」、「利用しやすい公共施設の拡充」という声が多く、「広報かどま」が主な情報源となっています。

25 ページの団体アンケートは、主な活動として「スポーツ」が5割、「文化・芸術・音楽」が3割となっています。26 ページの活動の目的は「健康のため」、「知識や技術を向上させるため」、「会員の楽しみのため」と、自分自身のこととしています。ただ活動成果を地域などで活かすことの意向は、「活かしてみたい」が6割あるので、活動を活性化していくことが一つの取り組みとして重要となります。

27 ページの市の取り組みとして、「施設の予約方法の変更」、「新しい活動場所の整備」、市と団体が共に取り組めることとして「団体紹介の情報収集と発信」、「市のイベントなど企画や準備」があります。

28 ページは、第4章として全体の課題を抽出させていただきました。現状やアンケート結果から一つの課題は生涯学習活動人口を増加させることが求められるということで、図は冰山モデルを引用させていただきました。「意識レベル」といって、活動していない水面下の方々を「行動レベル」にどうやって持ち上げていくかということが一つ、二つ目が青少年健全育成の推進ということで、「生きる力」を生涯学習と通して身につけてもらう、三つ目が担い手の育成、リーダーやコーディネーター、ファシリテーターなどの生涯学習を推進していく方が必要となります。

この中で「暗黙知」と「形式知」という言葉を使っておりますが、担い手の方が文字だけで伝えるのではなく、体験する、一緒に学習活動をするを通じて受け手が体得していくことという意味で引用させていただきました。四つ目で、ソフトの学習環境づくりの推進として、「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができる環境をつくる必要があります。

五つ目で連携協働体制ということで主体間の連携、行政だけでなくボランティア、NPO、大学、企業等のネットワークが必要です。

次に、施設間の連携ということで、ルミエールホール、公民館、図書館、市民プラザなどがありますので、この連携も必要となります。

六つ目が生涯学習施設の充実、市民アンケートの結果を踏まえ、本市では複合施設の建設計画がありますが、そういうもので充実させていく必要があります。

第5章からは計画論に入っていきます。基本理念、基本目標、基本方針と流れていきます。基本理念はできるだけ表現を柔らかくしたいということで、「興味をそそられる」、「こころよい」、「楽しい」、「魅力を感じる」、こういう意味で「おもしろい」を設定しました。

基本目標では、そういうところをスタートラインにし、最終目標としては門真市に住んでいる人が「住み続けたいまち」、外からの人も門真市に「住んでみたい」、「行ってみたい」、そういうところを直感的に感じられるようなまちになっていけば良いと考え設定しました。

基本方針を具体的にどうしていくかという時に、個人、個人が集まったなかま、なかまが集まった一つの地域でまちが構成されるというイメージです。

34 ページ、「一人ひとり」＝「人を育む」、「なかま」＝「人が活きる」、「まち」＝「人がつながる」というそれぞれの連関でイメージしていただきたいと思います。それは、「一人」、「なかま」、「まち」という流れで、36 ページにある図のようにスパイラル的に上昇していけば、「住み続けたいまち、住んでみたいまち、行ってみたいまち」ができ上がっていく、今後策定する個別計画の一つ前の計画なので概念的な内容であるかもしれませんが、こういうイメージで計画を組み立てていきたいと思っております。

37 ページから、具体的な大きな柱として施策をどう展開していくかを述べております。現状、課題、目標等から、結論としては 38 ページの六つの「施策展開の柱」をあげさせていただきました。一つは「情報提供」、導入の「プログラム提供」、そこに関わってくる「機会・施設の充実」、その相互の「ネットワーク強化」、を合わせて考えていきたいと思っております。五つ目が「家庭・地域教育、青少年健全育成の推進」、六つ目が市民とか活動を引っ張っていく、「指導者及びボランティアの育成」があります。

先ほどの基本方針の「人」、「なかま」、「せかい」と、この六つの施策展開の柱と重ねると 39 ページの図のようになります。

40 ページ以降、具体の中身が述べてあります。門真市の事例を中心にあげています。他市の事例も調べたのですが、手が届きそうにも無い事例だと、だめなのではないかという意見があり、手の届きそうな他市の事例をもっと入れるなど、もう少し作業は必要と思っています。

一つ目が「学びの情報提供」ということで、「門真市生涯学習だより」をみて市民が、「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができるという視点から施策の柱をつくっていきたいと考えています。

二つ目の「学びのプログラム提供」では、男女共同参画、人権、環境、消費者、地域防災などそういうもののジャンル別のプログラムを提供していく、あるいは、少年、青年、壮年、高齢者に向けてのプログラムを提供していくことがあると思います。

42 ページの三つ目の「学びの機会・施設の充実」については、例えば青少年では自然体験、社会体験、国際交流体験の機会を用意していく、社会人等に向けては通信教育、公開講座、科目別の履修制度などの機会を提供していく、高齢者には生きがいをもって主体的に参加できる機会を提供していく、事例で「蓮」を取り上げているのは、ネットワークをつなぐきっかけにならないかということで、ツールとして地域通貨を挙げました。

43 ページの四つ目の「ネットワークの構築・強化」につきましても、ボランティア、NPO、大学、企業と行政とのネットワーク、施設間のネットワーク、地域を超えたネットワーク、他のまちとの施設のネットワークも構築、強化していかねばなりません。

44 ページの五つ目の「家庭・地域教育、青少年健全育成の推進」については、

門真市では、事例にあげているようなことに力をいれていच्छいます。

45 ページの六つ目の「指導者及びボランティアの育成」について、福祉関係のボランティアセンターの事例を挙げましたが、コーディネートやマッチングする指導者の育成について仕組みづくりも検討しなければならないと考えています。

46 ページの「推進方策」について、一言で言えばいろいろなつながりがそれぞれでつながるのではなく、生涯学習の「プラットフォーム＝土俵」を一つの組織としてつくり、大学とか企業とか行政がプラットフォームの中で関わっていくことが必要と考えています。

もう一つ大事なのが活動資金ですが、一つ目はファンドレイジング、寄付、会費、助成金、補助金等により活動資金を集めて活動しやすくする、二つ目はアーツカウンシル、大阪市でも行っていて、第3者機関が審査、提案、企画したりする制度です。

最後に冒頭申し上げたように六つの柱はまだ確定したわけではありません。この計画は大きな枠組み計画で、このあと文化芸術関係、スポーツ振興関係、青少年育成関係等で個別の計画やプランが策定されていくという流れでとらえていただければと思っております。

今西委員長

ありがとうございます。充実したものになってきましたね。それでは先生方、今、ご説明があったことにつきまして、六つのパートに分かれますが、全体として、何かお気づきの点やご質問、ご意見などがありますでしょうか。

清澤委員

今、聞いていまして、素案の内容は門真市でなくても良いような気がします。例えば、豊中市も同じような素案が出てくるのではないかと思います。やっぱり門真市としてどんなことをするのか、その辺をいろいろ考えていただけたらと感じます。門真市のロケーション、独特の人口構成、年代、市の生い立ちなどを踏まえ、門真市独特のものにした方が良いのではないかと思います。門真市のアイデンティティが全体に薄まっている感じを受けました。

もう一つは、施策をつくるに際し、絵にかいたようなものではダメなわけで、実践やロードマップのようなものが必要ではないかという感じがします。下地をつくる、次はどんなことをして何年後にどういうことをするのか、そういうふうな一つの流れとして、総合計画という形では出ていますが、的をしぼって提言として行政側の本気度、教育的なものを求めていく人を支えていくとか、文化予算をどのくらい出すのか、極端に言えば映画料金に対して、門真市民であれば補助を出すとか、文化的なものに門真市民が接するに際してサポートしていくような提言もこういう場でできないのかなと思います。例えば、高齢者が教育的なことをする場合に、極端に言えば全部補助を出すとか、行政としても本気度みたいなものを示していってもらいたいです。

今西委員長 清澤委員から三つ、ローカルアイデンティティみたいなもの、これが門真市だ
というものがほしいこと、生涯学習推進計画の年次的なもの、ロードマップみた
いなものが必要ではないかということ、あとは行政のことについてのご指摘で
す。

清澤委員 住みよいまちとか住んでよかったとかいう感想は、市民一人ひとりが出すこと
だと思います。松本市の事例だと、行ってみたいと思うのは都市政策の中で出て
くるように思います。どちらかというと、「行ってみたい」より「住みよい」と
いうところを中心にして考え、その中でどのくらい実現できるのか、的を絞った
方が良いと思います。

今西委員長 二つの考え方があると思います。「住んでみたい」、「住んでよかった」という
のと、「行ってみたい」というのは違うと思います。松本市は行ってみたいまち
になっていて、一方、大阪のあるまちでは、地価が上がるようなまちにしたいの
で、どういうことをしたら地価があがるだろうと考えながらまちづくりしている
ところがあり、これが非常に力を発揮しています。こんなふうに工夫したらまち
の評価、地価があがるだろう考えるのは住み続けてるから出てくる感覚だと思い
ます。また、外から行ってみたいまちというのもあるので、この点も考えてたら
どうかと思いました。他に、ご質問やご意見などはございませんか。

清澤委員 文化もそうですが、門真市には誇りにするものがないとか、自慢できるものが
ないと言われてます。これから新しいコンセプトを取り入れて、門真の誇りづく
りに結び付くようなことをしようということで、旧第一中学校の広場の活用も含
めて施設をつくっては、どうかと思っています。施設の機会づくりは、行政の仕
事ですが、主役でしてもらうのが市民で、誇りになるようなものをつくっていき、
他市の人にも期待されるような活動をするのが市民だと思います。そこが売り
で、今までの門真市に足りないところだと思いますので、ここを起爆剤として今
までになかった門真らしさをみせることが誇りにつながっていくと思います。

今西委員長 どうでしょう。先生方、ご意見などはございますでしょうか。新しい門真アイ
デンティティみたいなものは難しいですね。市民の中からつくってもらえるよう
な形の応援を我々はすべきなのでしょうね。

清澤委員 土地の値段が上がれば価値が上がるとか、以前にもお話しましたが、住みやす
い都市ランキングなどは地価が上がるというのも要素になっていると思います。
そういうところも戦略的に考えていく必要があるのではないのでしょうか。例え
ば、塾などで優秀な生徒は門真市が保証して費用を無料にするなど、市民の不平

等性があるとは思いますが、門真市の人材育成という意味で生涯学習をしたいというメリットを行政は覚悟をもって示していかなければならないと思います。ボランティアで教えたりするのをお聞きしますが、ある程度塾とかになると難しいので、そこらへんをとらえて優秀な生徒を無料で教えたり育てていく環境や、費用の補助を出すなどが必要だと思います。

事務局 (ユーエヌ) 議論させていただいている中では、今、門真市は青少年の健全育成というところはかなり力を入れていて、門真市を支えてくれる次の世代に、教育行政の重点をおいて施策展開しています。

柴田委員 はばたけ事業という英語のプレゼンテーションコンテストは良いと思うので、学習意欲につながるようなものを増やしていけたら良いのではないかと考えています。

清澤委員 住みやすい都市ランキングで高いのが、結構いい教育を受けている、有名な附属高校や中学校があるというまちが多いです。施設を誘致するのは限界がありますが、塾に通わせられるように補助政策をするのは、市民にメリットがあります。予算の限界があって難しいですが、教育補助プログラムみたいなものがあれば良いですね。

今西委員 ある程度目玉的なものがあってもいいですね。

清澤委員 特色として、やや偏った目玉になるようなものがでてくると、おもしろいと思います。全国平均からして多分高齢者が多いと思うので、終末世代の人間というのはどういうことをするのか、そういうことについても考えてはいかがでしょうか。

事務局 (ユーエヌ) 高齢者でいろいろ技術をもっている人、名人や達人とかそういう方々が若い人に教えていくようなシステム、地域通貨「蓮」のことで言うと買い物だけでなく助け合い、地域の達人や匠と言われる方々に「蓮」を活用していくのもおもしろいと思います。

今西委員 そういった事例は全国的に結構そろってまして、インターネット版ですが住民に登録していただいて、さまざまなスキルや技能を蓄積されたショーケースという人材バンクがあり、これをみせることによって、求める人や団体をマッチングさせるといったことが進んできています。事例的にみていただくのであれば、インターネットで調べていただき「インターネット とやま市民塾」で検索をかけてみてください。人材、まちの名人、すぐれものの方々をショーケースで紹介し

ています。

経費をかけずにシステムをつくるのは大切なことで、このようなことも人手をかけずにできるので、門真市でやってみてはいかがでしょうか。

宮本委員 子どもが高槻市に引越し、高槻というまちは、文教のまちと聞いております。運動会に呼ばれて行ったのですが、最近、高槻の小学校では子どもが2倍ぐらいに増えたらしく、一方、本市では反対に子どもが減っています。本市でも高齢者にはお金をかけなくてもいいと思っていて、むしろ子どもたちの育成に学校も含めてたくさんのお金を使っていけば良いのではないかと思います。

今西委員長 高槻のまちが一つのモデルとして考えてみる。どうでしょうか。

石原委員 門真の場合は連携している大学があります。大学からいろんなものをもらえるというのは市民にとって大きいと思います。この中で43ページの大阪大谷大学、大阪国際大学とコラボレーションみたいなものがあれば良いと思います。例えばフォーラムをする時に、大学の学生さんに来ていただくとか、そういうイベントも取り入れていただいて、そこに今西先生の映像があれば若い人も高齢者の方も、こういうことが生涯学習なのかと、ちょっとは納得していただけるのではないのでしょうか。確かに、サタスタを頑張っていますが、NPOさんでは無料で教えていて定員が倍増したらしいです。知らないところで頑張っている市民の団体の方がおられるので、その辺に働きかけるのは市だと思います。私もこの冊子は分かりやすいと思います。それをただ具体的にどんなふうにすればまちづくりと生涯学習がマッチするか、具体的にどんなものを書くかは、難しいと感じます。

今西委員長 子どもの学力が気になっていました。門真は学力調査の結果はどうか。高い低いの問題ではなく、問題は何が低いかということです。低かったら上げたら良いだけのことです。例えば国語が低かったら読み書き、図書活動、読書活動を重点にするとかそういうところからしていけばよく、今よりも少しでもあげることが我々の責任で、ちょっとずつ上げていけばいいのです。

柴田委員 速見小学校が図書館を見直し、一番本の貸し出し冊数が多いというので朝日新聞から表彰をいただきました。中学校の学力はまだまだのところがあります。原因は家庭学習が1時間未満の子が多いことです。さっき話をしていた「サタスタ」や「まなび舎」を充実していこうと考えています。課題もわかってきましたし、PTAの協力もいただき、読書も取り入れていかねばならないということで、学校司書を4人配置することになりました。分析して課題がわかってきたので、これらの対策をしています。これからまたどんどん調査をしていきたいと考えています。

今西委員長 学校司書、学校図書館支援ボランティア、こういう人たちを育てるのが生涯学習で、生涯学習の振興を通してそういう方々を育てて子どもたちをみていただく、そういうまちをつくっていったら良いと思います。他にご意見ございませんか。

清澤委員 市の中でボランティアが育って市の教育施設が充実するのは理想だと思うのですが、今なすべきことを思いますと、ある意味で行政からの補助を出すとかが積極的な推進策としてあり得るのではないかと思います。並行して人材育成が大事だと思うのですが、市民が自主的に教養を求める、ただしそのいくつかは協働として市の方で負担を出していただくと良いのではないのでしょうか。

今西委員 今、言ってくださってることをするには、それこそファンドを使えば良いのではないのでしょうか。そういう形で塾とかに補助をしているというのは聞いたことがないです。第三者の委員会をつくって運用していただいたら良いのではないのでしょうか。

清澤委員 塾だけにつくるのではなく、ある一定の若い人だけでなく、中年、老年なども教養を求めているのであれば、それだけのメリットがあるんだということ、自主的にやっていくと映画を無料にするとかいろいろあれば魅力的なものになるのではないのでしょうか。たくさん一度にする必要はないとは思いますが、限定的なところからスタートしてファンドのできるのであればすばらしいと思います。

今西委員 他にご意見などはございませんか。

宮本委員 年に一回文化会館の行事としてふれあいまつりというのをしているのですが、打合せの時に、市から予算がもらえなかったら来年は開催が難しいということを相談したら、市からは予算が出せないと言われ、自分たちで資金を集めて開催しましたが、補助金がある方が活発に活動できるのではないかと思います。1サークル 500 円ずつ集めて開催したのですが、これがなかったら開催できていなかったと思います。そういう状況なので予算的にも応援していただくと盛り上がるものができるのでお願いしたいと思います。

今西委員長 昔は、市からもらう、市は県からもらう、県は国からもらうという流れでしたが、今はそうではなく、直接国からもらえるようになっていて、インターネットで補助金を調べられたらたくさん情報がでています。有名なものに「夢基金」があります。例えば、大学の教師はかつて大学から給料以外に研究費をもらっていましたが、最近はほとんど出ないです。だからといって研究できないということ

ではなく、あちこちの団体からお金をもらっています。計画が妥当と認められ、社会貢献できるとなれば、お金はもらえます。いろんな企業や生涯学習関係団体がいぶん応援してくれます。それは国が出すこともあれば、県が出すこともあります。インターネットで検索サイトを調べれば出てきます。宮本委員の場合もサークルの主旨に見合った補助金の情報を探されてはいかがでしょうか。

山田委員 門真市で市民公益活動事業補助金があるので参考にしていただければ良いですし、そのへんの周知をもっとわかりやすくしていただけたらと思います。上限があって、いただく倍の額を使わなければならない規定がネックとなっています。補助のしくみはいくつかあります。

今西委員長 大阪府にもあると思います。国にもいろんなものがありますし、民間団体もあります。

宮本委員 それはもう文化活動に限らずスポーツ関係とかもあるのですか。

今西委員長 いろんな分野であります。

宮本委員 いいご意見ありがとうございます。

今西委員長 お金がないと活動できませんから、うまく活用できるよう頑張りましょう。他にご意見などはございませんか。

桂副委員長 読ませていただいて確認なのですが、昔、文化の振興とスポーツの振興の流れは全然違う二股みたいな形に考えていたのですが、この生涯学習というのは、文化、演劇、音楽、発表会などだけじゃなくて、住みたいまちづくりや地域づくりを広い意味で推進していくという考え方でよろしいのでしょうか。

今西委員長 芸術文化という狭い意味もありますし、文化にはもっと広い意味もあります。

桂副委員長 特に駅の前を通ると施設がありますけれども、やはり生活文化の住みやすい、住んでよかったとか、美しいまち全部ひっくるめて、自分たちが誇りに思えるまちにしましょうというようなところで、門真に住んでいるのは誇りであると言える子どもを育てるのが基本的な考え方でよろしいでしょうか。

今西委員長 生涯教育という言葉が出てきたのは1965年で、生涯学習に変わったのが1970年代ですが、1970年以前に生涯学習がなかったのかと言えばあって、文化とい

うのがかつての生涯学習です。文化というのは抽象的で幅広いのでこれを明確に
していったのが生涯学習となります。例えば、生涯学習情報センターがあるの
ですが、昔は文化情報センターでした。1960年代から1970年代は、日本の昔の行
政文書を読んでいたらそういうふうに書かれています。文化というのは、今の生
涯学習的な意味があったということです。スポーツ文化というとらえ方もありま
すね。

桂副委員長 スポーツも文化であるというのが20年くらい前からそういう言い方をして、
非常に狭いところからはじまり、一昔前はなかなかそのあたりが行政の機構とし
て広がっていきませんでした。今、教育委員会がここにありますが、まちづくり
というのは、大きなところを他の部局ともからんで進めていくかなければなりま
せん。学校教育も全部含めて、うまく連携できたらいいのと思います。

今西委員長 貴重なご意見をいただきました。他にございませんか。もう大分時間がきてお
ります。今日はこれで終えたいと思います。よろしいですか。

事務局 それでは、次回、策定委員会の日時についてお伝えします。お手元の資料4「平
成25年度のスケジュール」をもう一度ご覧ください。次回の策定委員会につい
きましては皆様に日程調整をさせていただいたとおり7月18日午後3時から、
本日と同じ第5会議室で行いたいと考えております。この日に参加できない、出
席できない委員の方がいらっしゃいましたら、後ほど事務局までお伝え下さい。
以上です。

今西委員長 他にございませんか。以上で第4回門真市生涯学習推進基本計画策定委員会
を閉会させていただきます。ありがとうございました。